

生命の尊さを知る



平和、生命、そして人権

第二次世界大戦では多くの人々が生命や住むところを奪われ、街が破壊されました。そのため、二度と戦争が起こることのないよう、世界の平和を維持し、国家の枠を超えて自由と人権を保障することを基本理念として国際連合がつけられました。

しかし、戦争や紛争は、今もなお世界のどこかで繰り返され、多くの人々の生命が奪われ続けており、最大の人権侵害である戦争をなくし、人権を守るため「平和」であることが求められています。

今日では、「平和」とは単に「戦争のない状態」を意味するのではなく、より積極的な概念としてとらえ、社会全体の中で「人がそれぞれ信じる幸福の形を追求（＝自己実現）するための環境が整えられている状態」であると考えられています。

わたしたちは、「平和のないところでは人権は守られない」「人権のないところには平和は存在しない」という歴史の教訓を、未来の生命のためにしっかりと受け継ぎ、積極的に主張していかなければなりません（※）。

生命の尊さがすべての根本

人は一人で生きているわけではありません。集まりの中で支え合い、他の人とともに地球という一つの場所に生きています。そして、その根本に生命があります。

それぞれの生命はただ一度だけの、繰り返すことのできない大切なものです。

人だけでなく、動物や植物も生きています。地球上の生き物はすべて、もともと同じ一つの生命から誕生しました。はるかな昔からの生命の流れに思いをめぐらし、生命の尊さを自覚することが大切です。

21世紀を真に豊かな「人権の世紀・平和の世紀」とするためには、人権を「生命」という点からとらえ、生命の尊さはすべての生きている仲間に共通して不可欠なものであることを認識することが必要です。

※大阪府では、戦争の記憶を若い世代に語り継いでいかなければならないという認識のもと、「大阪空襲を語り継ぐ、平和ミュージアム」であるピースおおさか（大阪国際平和センター 裏表紙を参照）を中心に、戦争の悲惨さ・平和の尊さを未来に語り継ぐ努力を重ねています。

